

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-011	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Social inequalities and gender differences in the experience of alcohol-related problems. アルコール関連問題の経験における社会的格差と男女差		
執筆者		
Grittner U, Kuntsche S, Graham K, Bloomfield K.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2012 Sep-Oct;47(5):597-605.		
キーワード		
社会格差、男女差、国際調査、地域相関研究		
要 旨		
目的： 個々のアルコール関連の影響に関する国レベルの特性や個々の社会経済的地位 (SES) の及ぼす影響を調べた。		
方法： The Gender, Alcohol and Culture: An International Study という 25 カ国を対象とした断面調査により収集された 42,655 人の男女のデータが使用された。個人の SES は最高到達教育レベルによって測定した。アルコールに関連する問題は、過去 1 年間の少なくとも 1 回の内部または外部問題に関する自己報告によって定義された。個人の受けた教育とアルコール関連問題との関連はメタアナリシスにより検討した。第二段階では個人レベルのデータと国別データはマルチレベルモデルによって統合された。国レベルの指標として我々は国民総所得 (GNI) の購買力平価、ジニ係数、男女格差指数 (Gender Gap Index) を使用した。		
結果： 低教育の男女では飲酒パターンを調整後も高等教育の男女に比べアルコール関連問題を報告する傾向にあった。男性ではこの関連は内部的な問題と外部的な問題の両方で有意であった。女性ではこの関連は外部的な問題にのみ有意であった。国民総所得 (GNI) は男性において外部的な問題の報告と有意に関連していたが、それは低所得国の男性において、社会的な問題を報告する傾向にあったためである。		
結論： 同じように飲酒する場合でも、問題は低教育の人で頻発するという事実は、社会的、環境的な次元の問題に関連している。すなわち、より少ないリソースを持つ人々は、アルコール関連問題の経験やストレスの多いライフイベントの影響から保護されにくいということである。		